ここが聞きたい!!

6名が登壇

安本貞敏議員

災害は待ったなし！

問 何時、どこにやって来るかわからない災害に対しての情報伝達方法について問う。

答 （町長）災害情報をいち早く町民の皆さんに伝達する方法の一つとして、防災行政無線の設置を、平成21年度中に町内全域に整備をする。又停電時の対応として、各消防団支部と各総合支所等に、拡声器や、ハンドマイクを常時備え付けている。又防災メールについては、地震時に、防災情報施設が、崩壊した時には、配信不能になる事から、困難が予想されるが、停電時でも一度に情報を届ける事ができるので、貴重な手段と認識する。

問 旧町単位の民俗資料館の老朽化が進んでいると思われるが、今後、統合計画はあるのか。

答 （町長）施設の建て替えは、多大な経費が伴い、又資料も満杯状態であるから、統合建て替えは困難。小中学校の統合の進む中で、空教室を利用しての展示が妥当と考える。

問 町の重要文化財に対する、国、県の保護策は、どのようになっているのか。

答 資料館で保存しているものとして、久賀の諸職用具と東和の生産用具があるが、文化庁の補助事業で旧町時代に対応してもらっている。

▲防災無線屋外子局の拡声装置

木村　潔議員

閉校記念誌の作成を！

問 平成21年４月から始まる中学校統合について、閉校となる４中学校の記念誌の作成予定はあるか。ちなみに柳井市では、日積中閉校時に、地域に全戸配布している。

▲記念誌

答 （教育長）記念誌の内容や分量が同程度であるべきとの点、又作成か否かの決定にはその予算額が大きな要素となるので、閉校となる沖浦、蒲野、日良居、油田中の校長に、作成する場合の内容案、資料の有無及び配布先を検討して報告するよう、８月初旬にお願いした。

問 教員の中には、現在数名の長期休暇教員がいると聞く。その現状は。

答 （教育長）管理職２名は代替者がおり、本町復帰は原則あり得ない。教諭２名は職場復帰への取り組みを実施している。

問 統合後新しい学校へ転入する生徒、とりわけ受験生となる３年生は重要な時期での環境変化。万全の教員体制をお願いする。

次に、沖浦地区の発案の将来の再統合を見据えた、校歌等の統一案への対応は。

答 （教育長）同意意見は少なかったと判断している。その他諸問題は、統合準備委員会で具体策を検討するよう働きかける。